

平成30年度 自己評価表

本校の学校方針	質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知、徳、体、志」のバランスのとれた人材を育成する。
指導重点目標	①自己表現を可能にする学力の向上 ②基本的な生活習慣と社会的規範意識の確立 ③安心且つ切磋琢磨できる人間関係の構築 ④保護者・地域と連携した活気ある学校づくり

重点目標	年 度 当 初					中間評価		
	評価項目	評価の具体的項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法
①自己表現を可能にする学力の向上	高い志の育成	○目的意識と学ぶ意欲の向上	○進路目標が明確でなく、学習に対する意欲に欠けている生徒がいる ○「みらいチャレンジ活動」の導入とその成果発表会の開催により、主体的に学ぶ姿勢の育成とチャレンジする姿勢に改善が見られるようになってきたが、まだ不十分である	○「みらいチャレンジ活動」を中心に学問に対する興味や意欲を高め、主体的に学ぶ姿勢が身につく	・「みらいチャレンジ活動」を充実させ、地域への公開を継続する ・1年生・3年生の総合的な学習の時間の改善に向けて学年主任との連携を図る ・1年生での準備段階を充実させる。特に、1年生でコミュニケーショントレーニングを検証し、その充実を図る	・「みらいチャレンジ活動」は予定通り進行し、地域への公開は2月に予定している ・1年生でのコミュニケーショントレーニングは、3学期の予定を調整しながら実施する	C	・3学期に実施するものについては最終評価で評価し、改善点を検討する
		○自ら課題を見つけその解決に向けて積極的に行動する態度の育成	○体験的な活動を重視し、目標達成に向けてチャレンジする態度・能力が育つ	・「みらいチャレンジ活動」と連携し、書籍による情報の重要性を認識させる ・1・2年生でビブリオバトルを実施し、コミュニケーション能力を育成をする	・2年生の「みらいチャレンジ活動」を進める上で関連する書籍を紹介し、基礎的な知識を得られるようにした ・ビブリオバトルは1年生のみ1月に実施する予定である	B		・ビブリオバトルを2年生のみらいチャレンジに繋がるものとする
質の高い授業の実践	質の高い授業の実践	○アクティブ・ラーニングの実践により教員の授業力の向上を図り、生徒が主体的に参加する授業の創造	○全教科・全教員でアクティブ・ラーニングに取り組むことはできたが、内容的には改善の余地がある ○授業での教師に対する評価、生徒の達成感が目標値に届いていない	○アンケートにおける生徒の達成感に関する肯定的な回答が70%以上、教師の指導力に関する肯定的な回答が80%以上になる ○全教員でアクティブラーニングに取り組む、その技法の改善を図る	・全教科、全教員でアクティブ・ラーニングに取り組み、その内容のブラッシュアップを目指す ・公開授業の教員相互の見学を通して、教科指導の中にアクティブ・ラーニングを定着させる ・iPadを中心としたICTの活用をさらに広げる	・2学期中に全教科・全職員がアクティブラーニングの公開授業を行う予定である ・公開授業の参観者数が少ない ・授業中にiPadを利用した先生は20%程度である	C	・教科横断の視点からも他教科の授業参観を積極的に行えるようさらに働きかける ・iPadの活用実践例なども提示しながらICTの活用の推進を図る
		○習熟度別クラス編成、習熟度別授業のより効果的な展開	○生徒の学力の分析を行い、分かる授業を展開している ○先進校視察を参考にして効果的な学力向上策を立てる	・先進校視察で得た情報を参考に、本校教育の新たな方向性を決定する ・新たに1年生の国語に習熟度授業を導入し、より生徒の習熟の度合いに合った授業・考査・評価を工夫する	・先進校視察で得た情報を参考に、新しい教育課程の準備を進めているところである ・2、3年生の習熟度別授業では、習熟の度合いに応じた内容の精選と考査の作成、評価を行っている	B		・教育課程の見直しについては、年次進行で進めていく ・本年度から取り入れた1年生の国語の習熟度別授業は、2学期の中間考査後から実施する予定である
学習習慣の確立	学習習慣の確立	○高校での学習方法の理解と必要とされる家庭学習時間の確保	○家庭での学習時間が十分でない。また効果的な学習方法がわからない生徒もいる ○長期休業中の学習会の参加者は増加傾向にあり、参加した生徒にも好評である	○家庭学習時間調査で次の目標を達成する 平日： 1・2年生2時間以上、3年生3時間以上 休日： 1・2年生4時間以上、3年生5時間以上 ○オリエンテーションを通しての学習習慣の確立と学習方法を理解する	・課題の内容や量を精査しながら学力および学習意欲の一層の向上につながるよう取り組ませる ・進路講演会や個人面談等を通じて、日々の学習の大切さを生徒に理解させ、継続的に指導を行う ・生徒の能動的な学習につながるよう初期指導の充実および日常の継続的な指導を行う	・課題については基本的な部分を全員対象、チャレンジ問題は希望者対象にし、適正な量および習熟の度合いを考慮するなどの工夫を行っている ・1年生の初期指導は、パワーポイントを利用して内容の充実と努めている ・各学年とも、第1、2回の学習時間調査では目標数値に達していない	C	・引き続き課題の質、量を精査し、学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る ・1年生の初期指導については、生徒の実態に応じて授業の中でよりきめ細やかな指導をしていく
		○休日や長期休業における学習の充実	○土曜学習会、長期休業中の講習の参加者が増加する	・夏期学習会では事前に生徒に計画をきちんと立てさせ、より明確な意識をもって学習会に当たれるようにし、その後の学習にも繋がるように指導していく ・部活動との両立の一助になるよう各部活動との連携を図る	・夏期学習会は3年生の参加者数が昨年度より4割増加し、席が足りなくなるくらいであった ・3年生の多くは学習会でリズムを作り家庭学習につなげているが、1、2年生では家庭学習にまでつなげられていない生徒が少なくない	B		・次年度も夏期学習会を続けていく中で学習習慣の確立を意識付けていきたい
国公立大学・難関私立大学に合格できる力をつけた生徒の増加	国公立大学・難関私立大学に合格できる力をつけた生徒の増加	○主体的に進路を選択できる能力の育成と戦略的な進路指導組織の確立	○国公立大学の現役合格者数および模試の偏差値50以上の生徒数は目標値に届かなかった ○入学時点での学力差が広がり、進路意識の多様化が進む傾向にある	○キャリア教育を通して自立的な進路設計とその実現ができる生徒が増加する ○進路指導部を中心とした進路指導組織の確立	・3年生の進路講演会は予備校から講師を招いて実施する内容を継続する ・10月と12月の進路調整会では、個人懇談や三者懇談で志望校決定の具体的な資料が提供できるようにする ・引き続き先進校視察、教員による大学訪問を実施し、進路指導に有効な情報の収集・蓄積を図り、生徒への指導に活かす	・河合塾より講師を招いて進路講演会を実施し、厳しい現状と都市部の進んだ取り組みを紹介していただき、生徒に危機感を抱かせることができた ・大学訪問は10月上旬に山口県立大学や愛媛大学などを訪問する予定である	B	・進路調整会が形骸化している。今後は事前に学年と協議し、各回の目的をはっきりさせ学年団が欲しい情報や統計を精査したい
		○模試結果の利用とセンサー試験を意識した指導	○1月進研模試で偏差値50以上の生徒数が1年生で160人以上、2年生で140以上になる ○現役合格者が国公立大学で75人以上、難関私立大学で25名以上となる	・1・2年生の予備登録・本登録の時期や3年生の総体後など、回数は少なくとも進路を考えるべき時期に「進路だより」を通じて必要な情報を発信し、意識を高めさせる ・模試等で数値目標を設定し、その実現に向けて委員会検討を行う ・生徒に模試後の復習について具体的な方法を提示する ・模試分析を活用し、授業内容の改善と課題の工夫に繋げる	・業務が処理できず、進路だよりの発行に未だ至っていない ・学力向上委員で模試の結果を報告し、分析をしている ・難関私立大学は指定校推薦での出願も増えた	C		・進路だよりを発行し、特に1・2年生の進路意識を高める ・国公立大学の推薦入試の指導を徹底し、数値目標達成に向けて努力したい

重点目標	年 度 当 初					中間評価		
	評価項目	評価の具体的項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法
②基本的な生活習慣と社会的規範意識の確立	基本的生活習慣の確立	○健全な心身の育成	○問題行動は若干あったが、生徒全体としては概ね落ち着いた学校生活を送っている ○昨年度は一昨年度に比べ遅刻する生徒が若干増加した	○年間の問題行動発生件数が0になる	・学年集会、終業式等で強く注意喚起する ・教室掲示用の「生徒部からの注意」を学期ごとに作成し、問題行動の発生防止に努める	・残念ながら1学期に問題行動があり、指導を行った。ただし、全体としては落ち着いた雰囲気の中で学習活動等が行われている	C	・集会等での注意喚起はもちろんのこと、掲示物「生徒部からの注意」の中でより具体的に問題行動を取り上げ発生防止に努める
		○学方向上につながる生活リズムの確立		○年間遅刻者数が前年比10%減となる	・引き続き毎朝の昇降口指導を行い、遅刻者ができる限り減るよう努める ・精神的な問題を抱えている生徒については、生徒支援部との連携を行う	・遅刻者は昨年と同程度だが、8時25分ぎりぎりに登校する生徒が2学期に入り急増している	B	・掲示物「生徒部からの注意」も利用しながら、基本的生活習慣の確立が充実した学習活動や進路実現につながることを訴えかける
	社会的規範意識の育成	○社会の一員としての自覚の喚起	○自転車の運転マナーはやや改善したが、苦情の通報も少なくなっている ○TEASの活動については、ゴミの排出量、電力使用量、水道使用量とも現在のところ今年度の取り組み目標をほぼ達成できている	○地域からの信頼が向上する ○環境を意識した生活を送る	・自転車通学時の事故も発生しており、自転車通学者への指導を強化する ・街頭指導の回数を増やすとともに、安全運転教室等の開催も検討する ・TEASに関しては、今年度の目標を達成する努力を継続していくとともに、生徒の環境意識を高める取り組みをしていく	・大きな自転車事故はなかったものの、軽微な接触事故は例年並みに発生している。また、自転車通学のマナーは改善傾向にはあるものの、自転車運転時のイヤホン使用や並進等が一部の生徒に見られる ・TEASに関しては、概ね目標を達成している	B	・引き続き交通安全週間での街頭指導を行うとともに、危険な運転をする生徒への個別指導を強化していく
③安心且つ切磋琢磨できる人間関係の構築	健全な高校生活の充実	○部活と学習の両立ができる生徒の育成	○週1日の部活動休養日および定期考査前の部活禁止期間も徹底できている ○生徒会活動全般において、生徒会執行部が主体的に活動している	○週1日の部活動休養日および定期考査前の部活禁止期間も徹底と部活動と学習の切り替えがきちんとできる	・週1日の部活動休養日および定期考査前の部活禁止期間を設ける ・引き続き定期考査前の部室の鍵の受け渡しについては、活動申請を確認したうえで行うようにする	・週1日の部活動休養日の設定と定期考査前の部活動に関する申し合わせ事項については、概ね徹底できている	A	・部長マネージャー会議等を通して、鍵の返却のルールを徹底し生徒会執行部が定期的にチェックを行う
		○部活動・生徒会活動の活性化		○運動部の全国・中国大会出場が20競技以上、文化部の全国大会出場が5部門以上となる	・生徒会執行部の生徒たちが、「自分たちの仕事や年間の生徒会行事をスムーズに進行している現在の状況を維持する ・短時間でも成果が上がるような効率的な部活動指導を探る	・学校祭やその他の学校行事が、生徒会執行部や実行委員会などの生徒が主体となって企画、運営されている ・部活動のガイドライン等を参考に、部活動の練習は合理的・効率的・効果的に、短時間で集中して行うことが求められている	B	・学校行事に関しては教職員、生徒とも十分に活動できているものの、各行事の内容や新しい取組、課題などを生徒が中心となって検討し改善することで、生徒会の活動や学校行事等をさらに充実させていく
	望ましい人間関係の構築	○自己の個性の理解と他者の個性の尊重 ○自尊感情の育成	○コミュニケーションが苦手な生徒や不適応の生徒の増加傾向にある ○SNS等でトラブルがおこることがある ○ボランティア活動への参加者が減少した	○自分を含め一人ひとりが大切な存在と認識できる ○良好な人間関係およびコミュニケーションができる	・学期毎の職員会議において生徒の状況報告を行い、職員間の情報共有をさらに深める ・情報リテラシーに関する講演会は、今後も入学予定者とその保護者に対して継続する ・教科「情報」だけでなく、iPadを用いた授業においても情報リテラシーについて積極的に取り上げる	・毎週の支援部会議、毎月のケース会議をはじめ、PC内の「支援部周知事項」の定期的更新により生徒への綿密な対応が図られつつある ・SNSでのトラブルなどが依然として見られる	B	・緊急対応の必要な場合の対応手順の明確化を図り、外部専門機関との連携をさらに深める ・人権教育の観点からも情報リテラシーについて取り上げていく
		○社会貢献活動への積極的な参加 ○主権者意識の育成		○各種ボランティアへの参加者が一層増加する ○部活動等の単位で地域貢献活動へ取り組む	・生徒が希望するボランティア活動が行えるように調整を行う ・部活動等の少人数での地域貢献活動の方法を探る	・ボランティアには一昨年度と同数程度が参加した。ただし、部活動等での少人数での活動はまだ実施できていない	B	・1、2年生に対して、長期休業中のボランティアへの積極的な参加を呼びかける
④保護者・地域と連携した活力ある学校づくり	学校教育活動の積極的な公開	○PTA活動の一層の充実 ○学校と保護者の連帯の強化	○PTA大学訪問研修や交通安全街頭指導にも保護者の積極的な参加がある ○ホームページを利用した情報発信方法がタイムリーにできている	○PTA活動への参加者が増加する ○タイムリーにホームページの更新を行う	・ホームページではタイムリーな情報発信を行う ・より多くの部活動が積極的にホームページで活動状況を発信する ・教育活動の発信についても、担当者が校務委員会で確認する	・様々な教育活動についてタイムリーに情報発信できているが、より一層の充実が望まれる	B	・現在、ホームページに発信されていない教育活動や部活動を確認し、より充実したホームページとなるようにする
		○公開授業や人権公開LHRの充実		○保護者、関係機関、地域からの参加者の増加する	・保護者への案内文書やPTA広報紙での発信に加え、ホームページの更なる活用や地域への発信も行う ・例年発行のPTA人権広報紙により、生徒・保護者への内容の周知とともに人権意識の啓発を図る	・PTA役員が積極的な活動により、例年通りPTA広報紙による情報発信ができている ・PTA人権広報紙は計画通り発行できている	B	・PTA人権部と生徒支援部合同の人権教育講演会を企画している
	地域や関係機関との連携の強化	○中高連携事業の一層の充実 ○文化部総合芸術祭「翠燦く」の一層の充実	○芸術科を中心とした中高連携事業および文化部総合芸術祭「翠燦く」は取り組みとして定着している ○高大連携により「みらいチャレンジ活動」の充実を図ることができた	○学校全体で中高連携事業および文化部総合芸術祭「翠燦く」に取り組む	・中高連携事業は本校生徒がより主体的に中学生に働きかけるように意識の醸成を図る ・「翠燦く」は、再スタートという気持ちで新たなものへの挑戦を模索する	・中高連携事業は、今年は美術のみで実施している ・「翠燦く」は3月に実施予定である	B	・中高連携事業については来年度は学校独自事業とし、書道の参加を考えている
	○高大連携の強化と生徒の変容		○各大学訪問の参加者の予定人数が確保できる ○アドバイザーの指導により「みらいチャレンジ活動」が一層の充実する	・大学訪問での本校の卒業生との懇談は継続するが、研究発表会への参加など大学での学問・研究へ触れる機会を探る ・「みらいチャレンジ活動」は、今年度もアドバイザー（大学教授）を迎え専門家から見た活動への評価を参考にする	・計画通り島根大学および島根県立大学のオープンキャンパスに参加した ・「みらいチャレンジ活動」については、島根大学の作野教授に引き続き助言をお願いしている	B	・生徒にとって「みらいチャレンジ活動」が進路研究のひとつに位置づけられているのが曖昧である。さらなる生徒への啓蒙が必要である	

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）